

増加している前立腺がん

これまで米国で多く、日本では少なかった前立腺がんが、近年増加しています。最新のがん統計によると、一年間に新たに前立腺がんと診断される男性は、胃がん、大腸がん、肺がんに次いで四番目に多いと予測されています(表1)。

表1

日本人の最新がん統計

がん罹患数予測 (2018年)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	胃	大腸	肺	前立腺	肝臓
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮
合計	大腸	胃	肺	乳房	前立腺

がん死亡数予測 (2018年)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
合計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

国立がん研究センターホームページ「がん情報サービス」参照

前立腺がんの
早期発見と治療方法

前立腺がんは、中高年の男性において特に注意すべき病気のひとつです。しかし、初期には自覚症状がほとんどないことから、発見が遅れる可能性が高いがんです。

ほとんどが無症状です。前立腺がんの早期発見には、採血によるPSA(前立腺特異抗原)検査が有用です。名古屋市内では五〇歳以上の男性を対象に一年に一回、PSA検査を五〇〇円で受けられるワンコイン検査が実施されています。

最新の診断・治療方法

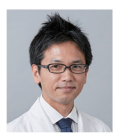
前立腺がんの確定診断には、針を使って組織を採取する針生検が行われます。名古屋市立大学病院では、MRIと超音波の融合画像を用いた高精度の針生検を東海地方ではじめて導入しました(先進医療)。この生検方法により前立腺がんの早期発見率が、これまでより改善されることが期待されます。前立腺がんと診断されたら、画像検査による病期(ステージ)診断が行われます。

転移がない早期の前立腺がんは、手術や放射線療法で根治できます。現在、身体への負担が少ないロボット支援手術が普及しています(写真)。また、今年の四月から陽子線治療が保険適応になりました。骨やリンパ節などに転移がある進行した前立腺がんでは、薬物治療(ホルモン療法・化学療法)が行われます。ホルモン療法には、いずれ効果が乏しくなる(治療抵抗性)問題点がある

りましたが、近年新しい薬剤が使われるようになりました。

名古屋市立大学病院泌尿器科では、前立腺がんのステージ、患者さんの年齢やライフスタイルに合わせた治療方法を提案しています。担当医とよく相談して、自分自身が納得して治療を受けることが大切です。

最後に、お薦めの本を紹介いたします。徳留信寛著「前立腺がん予防物語」中日新聞社。がんの予防を研究してきた著者自身が、前立腺がん患者となりの治療を受けた経験がユーモアを交えて書かれています。



安藤 亮介(あんどうりょうすけ)
名古屋市立大学 大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野 講師。2000年三重大学医学部卒業、2009年名古屋市立大学大学院修了、博士(医学)。日本泌尿器科学会指導医・専門医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、泌尿器ロボット支援手術プロクター、がん治療認定医。専門は泌尿器科疾患の予防医学。



ロボット支援下手術の様子

問題点がある(治療抵抗性)問題点がある